

しらかばの木

小川未明

青空文庫

さびしいいなかながら、駅えきの付近ふきんは町まちらしくなっていました。

たばこうを売る店みせがあり、金物かなものをならべた店みせがあり、また青物あおももの

や、荒物あらものなどを売る店みせなどが、ぼつり、ぼつりと見みられました。

そして、駅前えきまえから、あちらの山やまのふもとの村々むらむらへいく、馬車ばしや

がとまっていました。いぜんには、バスが往復おうふくしていたが、戦せ

争そうがはじまってから、馬車ばしやにかわったのでした。

もうほとんどなく、馬車ばしやが出るといので、待合室まちあいしつにいた人々ひとびと

が、箱の中はこへはいりかけました。なかには大きな荷物おおもものをかかえた

男おとこがいました。たぶん山間やまあいの農家のうかへあきないにくのでしょう。

またはでな日ひがさを持つた、若い女わかおんながいました。これは、町まちへ出で

はたらいて働いているのが、法事ほうじかなにかあるので、休暇きゅうかをもらい、実家つかへ帰かえるのかもしれない。ほかに一人ひとり、やぶれた学生服がくせいふくを着きた少年しょうねんが乗のりました。少年しょうねんは、このへんのもので用ようたしにどこへかいくのか、それとも、早く家いえを出でかけて、もう用事ようじをすまして、帰かえるみちなのかもしれません。それらの人ひとたちといっしょに乗のつたのが、このほど戦地せんちから帰還きかんした秀作しゅうさくさんでありました。

いま、お話しはなしするのは、その秀作しゅうさくさんのことであります。秀作しゅうさくさんは、やはりあちらの山やまのふもとに生うまれたのでした。幼児ようじのころ父ちちをなくして、その後ごは、ただ母親ははおやひとり一人の手てにそだてられて大きおおくなりました。そして、十五、六のころ、遠とおい町まちの

ほうこうにやられて、そこで一人前にんまえの職工しよつこうとなつたのです
 が、かたときも忘れなかつた、なつかしい母ははは、その間あいだに死しんで
 しまいました。

こんど、戦争せんそうがはじまると、秀作しゆうさくさんは、寄留先きりゆうさきから
 召集しやうしゆうされて、勇ましく出征しゆつせいしたのであります。

あのはてしない戦線せんせんで、あるときは、にごつた大きな川かわを渡わた
 り、あるときは、けわしい岩山いわやまをふみこえて、頑強がんきやうにてい
 こうする敵兵てきへいと、すさまじい砲火ほうかをまじえ、これを潰滅かいめつし、
 逃げるにをついげきして、前進ぜんしん、また前進ぜんしんしたのであります。
 ある日ひのこと、これも山岳地帯さんかくちたいであつたが、わずかに谷たにをへ
 だてて敵と対峙たいじしたことがあります。こちらは寡勢かぜい（兵へいの少すくない

こと）で、敵のほうは大部隊であるうえに、敵の拠点（より
 どころ）でもあったから、打ち出すたまは、さながら雨の降るよ
 うに集注されました。ヒュン！ ヒュン！ と、小さなうな
 りが、耳もと近くやけつくようにすると、左右に草の葉が、パツ、
 パツと飛びちりました。こうした場合、もしすこしでもひるむこ
 とがあれば敵はあなどつて逆襲するのがきまりだから、ます
 ます攻勢に出なければならぬ。いままで勇敢に戦っていた
 戦友が、ばたり、ばたりと前後にたおれていきました。それに
 つらかったのは、たまのつきかかったことでした。さいごには突
 撃するのであるが、そのときまで、残りのたまをもつとも有
 効に使わなければならなかった。秀作さんは、胸をはり、

いきを入れて、一発必殺の信念をこらしめました。このときふと一本の木立が目にとまりました。それはしらかばのようです。

「おや、見たことのあるけしきだぞ。」と、秀作さんは、突

如こう思うと、自分の目をうたがいました。木は、なだらかな

斜面に立つて、下に雑草がしげり雑草にまじって、むらさ

き色の花が咲いていました。しゅんらんかもしれません。

「秀作や、私は、さつきからここで、おまえを見ているのだ

よ。どうかりっぱに戦って、日本男児として、はじない働きを

しておくれ。」

おお、おかあさんだ。ほんとうにおかあさんが、あすこに腰を
かけていられる。仕事着の、あのすがたで、腰をかけていられる。

彼は、我を忘れてそのそばへかけようとしたが、「む、だめだ。」と、はげしく頭をうちふつて、自分でまぼろしをうちけし、じきにそのもえつく目は、前面の敵をにらんで、攻撃をつづけたのでした。

「日本にっぽんの荒鷲あらわしだ。」と、さけんだものがあります。空を黒くおおうように、爆撃機が頭の上をすれすれに飛ぶかとみると、敵のトーチカを目がけて、爆弾を落としました。たちまち黒けむりの中から火ばしらがあがり、万山は鳴動しました。これより早く、秀作さんの部隊は、敵陣地目がけて突進していたのです。

その日のことを思い出すと、秀作さんは、いのちのあつた

こともふしぎだが、おかあさんのすがたを見たこと、ことごとくゆめのような気がするのでした。

「おかあさんについて、山へいったとき、自分はまだ八つか九つであつた。その下で休んだ峠のしらかばの木は、まだあるだろうか。」

帰還してから、秀作さんは、毎日のようにそのことを思つたのでした。とうとうたまらなくなつて、自分の生まれた村へ帰る道にあつたのです。たとえ村へ帰つても、自分をむかえてくれる家があるのでなし、また自分を知つていてくれるものもなからうと思うと、秀作さんは、たよりないような、さびしい気がしました。しかし、そんなことはどうだつていい。自分が子供

のじぶん、おかあさんといっしょにその下で休んだ、しらかばの
 木の立っている峠へさえいけばいいのだ。そして、そのなつかし
 いけしきをふたたび見る事ができれば、のぞみがたりるのだと
 おも
 思いました。そこへいけば、死なれたおかあさんが、きつと出で
 いらして、ほんとうにおかあさんにあえるという気がしたのでし
 た。

「ホウ。」といって、そのとき、馭者は、つなをひきました。
 やせた赤毛の馬が、ガラツ、ガラツとわだちをきしらせました。
 つづいて、ピシツ、馭者がむちをあてると馬は本気になって走
 り出しました。外を見ていると、だんだん駅から遠ざかりました。
 ひ
 火の見やぐらがあつたり、警防団のふだのかかったこやなどが

あつたりしました。ひでりつづきで、道みちがかわいているので、すこしの風かぜにも、白いほこりがまい上ありました。それから、停てい留りゅう場じょうごとに、人ひとが乗のったり、降おりたりしました。松まつ林ばやしにさしかかるころは、馬うまも、はやつかれたのか、黒くろくあせがにじんで、あえいでいました。

「ホレ。」といって、ピシリ、ピシリと馭ぎよ者は、つづけざまにむちを馬うまの腹はらにあてました。

秀しゅう作さくさんは、馭ぎよ者しやの方ほうを見みながら、

「親おや方かた、おまえさんは、戦せん争そうにいきなさったか。」と、ききました。ふいにこう問といかけられたので、馭ぎよ者しやは、おどろいた顔かおをして、

「どうしてですかね。」と、いいかえしました。

「戦線せんせんでは、兵隊へいたいも馬うまもいつしよだからよ。馬はおとなしい、

ききわけのあるかわいいやつで口くちをきかないだけさ。ピシリとた

たかれると、おれがたたかれるような気がしてね。」と秀作しゅうさく

さんは、しいて大きく笑わらいました。大きな荷物おもつを持った男おとこは、

「あんたは戦争せんそうにいつてきなすったか。」と話はなしかけました。

車しやちゆう中ちゆうの人はみんな秀作しゅうさくさんの顔かおをみました。

北支ほくしから、中支ちゆうしへ二年ねんばかり。」

「それは、ごくろうさんでした。お家うちは、この近くちかですかね。」

「私はわたし、旅たびでくらしています、ひさしぶりで、おふくろにあい

におもいこうと思おもつて。」と、秀作しゅうさくさんは、ついそういつてしま

つたのでした。

「それは、それは、どんなにかお喜びよろこでしよう。」

馭者ぎよしやは、秀作しゅうさくさんにいわれてから、馬うまにむちをあてるの

も、手心てごころしているようにみられたのです。山やまのいただきに白しろい

雲くもがわいて、遠とおくの方ほうで、かみなりの音おとがしました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「少国民の友」

1943（昭和18）年6月号

初出：「少国民の友」

1943（昭和18）年6月号

※表題は底本では、「しらかばの木《き》」となっています。

※初出時の表題は「白樺の木」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年11月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

しらかばの木

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>